

二次試験 傾向と対策

英語

【傾向】

試験時間は120分で、問題構成は、第一問、第二問が長文問題で、第三問が自由英作文で、第四問がリスニングです。リスニングは試験開始50分後に約20分間放送されます。

●長文問題

長文二題のうち、一題が小説や随想文、もう一題が論説文であることが多く、下線部和訳や、内容説明、理由説明、要約問題、選択問題、空所補充などが出されます。一時期、易化がつづいていましたが、近年は難化の傾向にあり、特に去年の大問一はかなりのレベルです。今年の問題は去年程の難しさはありませんでしたが、それでも一時の易化していた時期の問題と比べると難しくなっているように思います。

●自由英作文

三つのトピックから一つを選んで130～150字で自由に論述させます。トピックは割と一般的なものが多く、近年は日本論（日本に関係したトピック）が出ることが多いです。ちなみに一橋では自由英作文は英文自体だけではなく、英文の内容も採点対象に入っているらしいです。つまり、完璧な英文でも幼稚な内容では点数は望めないということです。（といっても無理に背伸びする必要はありません。あくまで自分の書ける範囲でどれだけ論理的に書けるかがミソです）

●リスニング

A問題とB問題に分かれています。去年、A問題は英文を聞いて答えの選択肢を選ばせ、B問題では英文を聞いて、英文で答えさせるものだったのですが、今年のB問題は英文を聞いて、その内容を英語で要約するものになっていました。この形式は以前出ましたが、その翌年にはまた出題形式が変わってしまったという前例があるので、来年もこの形式で出題されるかは分かりません。なので、どちらも対策しておきましょう。ちなみに英文と問題は全部で三回放送されます。

【対策】

< 長文問題 >

●読解

一橋の論説文は単に構文が難しいだけでなく、内容そのものが理解しづらいことが多いです。つまりただ英文を一文一文訳していただいただけでは駄目で、パラグラフごとの全文における役割を把握し、論理展開をきちんと追っていき、先読みしながら読む技術（いわゆるパラグラフリーディングです）が必要になります。その技術を身につけるのに大切なのはなんといっても精読です。じっくり時間をかけ、その長文の内容や論理展開が深く完全に理解できるように読もうとする日頃の訓練

が必要です。この際、どうせこんな感じの意味だろうななどと、いい加減な姿勢でいてはいけません。本気で取り組んでください。もし分からない部分があったら後でまた読んでみて、自分で、ここが筆者の主張でそこが具体例などと説明できるようになるまで理解を深めてください。また、ここで however がきたから前説がひっくり返るなどか、このパラグラフはプラスストーンであつちはマイナスストーンだ、などと考えながら読んでください。これは最初のうちはかなり面倒な作業でしょうが、マスターしてしまえばかなりの読解力を手に入れることができます。そしてある程度読解力がついてきたら今度は速読にチャレンジしてみてください。そして速読も出来るようになったら今度は英文を英文のまま理解できるように訓練してみてください。ここまでくるのはかなり大変ですが、ここまできたら長文読解はもらったも同然です。また一橋の単語、熟語のレベルは意外と高いので単語帳は最低一つ完全にマスターしてください。恐らくそれでも分からない単語に遭遇すると思いますが、その時は文脈から推測してください。また一橋では和訳問題以外にも内容説明問題で熟語と絡めた設問がでることが多いので熟語帳もやっておきましょう。また、小説や随想文では論説文とは多少読み方が変わってくるのですが、これらは慣れが大切です。過去問や私大の小説文を多く読んで小説独特の言い回しに慣れてください。最後に、長文は高度なレベルのものを毎日必ず読んでください。意外と一日でも読まないと言われないと勘が鈍るものです。自分は一橋の後期の長文と十五年以上前の前期の長文を集め、更に洋書を買って毎日読んでいました。ローマは一日にして成らず、です。日頃の取り組みが大事ですよ。

●和訳

和訳はまず構文を把握することが第一です。和訳が苦手なら、並列関係や修飾関係などに注意して英文を図解してみてください。そしてその図解の通りに訳していくのを続けることで徐々に上手く訳せるようになります。訳出する場合は文脈が非常に大事です。文脈に合わせて、多少表現を変えたり、多義語の訳を決めたりしてください。自分で試行錯誤してより良い訳を作ろうとする姿勢も大切です。和訳の参考書としては『ビジュアル英文解釈』と『英文解釈教室』が巷で評価が高いですが、自分としては『思考訓練の場としての英文解釈』がお勧めです。これは知人ぞ知る参考書史上最大の「奇書」と言われるもので、腕に自信のない方が手を出すのは大変危険です。自分はこの本に戦々恐々でした。腕に自信があり、そして相当な覚悟がある人は手にとってみてください。書店で見つけるのは難しいかもしれませんが。ちなみにこの本は全問解く必要はありませんよ。

●説明問題、要約

内容説明問題には狭い範囲から解答させる問題と広い範囲から解答させる問題、そして文脈から考えて自分で解答させる問題とがあります。最初のものはある程度読解ができれば解答出来るはずです。次のものは要約的な要素が入ってくるので、どの部分が大切でどの部分が大切でないか見抜くことが必要です。例えば具体例などは削って構いません。最後のもの、この手の問題は文中に解答のヒントが提示されているはずなので、それを手がかりにして解答しましょう。内容説明では前提として読解力が必要になってくるので、何を書いていいか分からないという人は、まず読解力を磨いてください。書くべきことが分かるが、上手く書けないという人は、記述力が欠けています。その場合、上手く書けなくても、自分の手で書いてみるのが大切です。そして、自己添削して、また書き直してみてください。練習あるのみ、です。

●空所補充、選択問題

これは文法的な問題と、文脈理解の問題とに分かれます。前者は知識がなければ始まらないので頑張って覚えましょう。後者は論理展開の理解を問う設問なので、読解のところを参照してください。

<自由英作文>

自由英作には経験が不可欠です。しかし、ある程度単語や構文の知識がないと書くことは出来ないで、対策を開始する時期は九月ぐらいからでいいと思います。書いたら第三者に添削してもらったほうがいいです。また、模範解答があると思いますが、そこに出てきた専門用語や論理展開の型などは覚えておきましょう。専門用語が書ければ文章が洗練されるし、展開の型をいくつか覚えておけば、後は当てはめるだけで書けてしまいます。ちなみに私は、主張⇒反対の説⇒その反論⇒主張の根拠の列挙⇒まとめ、という型が得意でした。また疑問文を挟んでみると文章にアクセントがつけます。単に主張、根拠の列挙、という型は簡単ですが、この型だと周りとの差別化が図れないのでお奨めしません。あと、同じことの繰り返しは避け、書き始める前に、論理展開や主張、根拠を簡単に英語でメモしてから始めるといいです。何故日本語では駄目なのかというと、日本語だと英訳出来ないレベルの事を書いてしまう危険があるからです。また自分は試験開始とともにトピックだけを見て、どれを書くか決めてから長文に移りました。こうすることで長文の中から使える単語や構文を盗むことが出来ます。そして一橋模試の自由英作は本番前に必ず見直しておきましょう。以前、的中したことがあるらしいので。

<リスニング>

リスニング上達の鍵はとにかく毎日聞くことです。10分でいいです。毎日聞いてください。慣れてきたらディクテーションをしたり、よりスピードの速いものを聴きましょう。

Column：第二外国語

一橋大学ではクラス制がとられています。大学でのクラスとは高校時代のクラスとほぼ同じで、入学式の日に発表されます。さて、そのクラスですが一橋では学部を問わず、第2言語によって振り分けられます。具体的に何語があるかといえば…ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語の4つになります。言語というのは人を選ぶ…のかどうかは分かりませんが、クラスごとにちょっとした特徴があるんです☆ドイツ語は男の子が多い、フランス語は女の子が多くて華やか、ロシア語は例年1クラスで変わり者が多い、中国語は団結力があって熱い…など勝手なイメージを筆者は持っています。クラスなんて第2言語の授業でしか関わらないじゃん！なんて思う人もいるでしょうが、実際はクラス単位で参加する行事がたくさんあります。新歓合宿や、スポーツ大会、KODAIRA祭などクラスの子と仲良くなるチャンスはいっぱいあるわけです。クラスの親密度や各イベントの参加率などはクラスによって違うので（クラスコンパ係のやる気にもよる）、どんなクラスにあたるかは運任せな面もありますが、合格して第二言語を選ぶ際には少しは慎重に選びましょうね♪

数学

【傾向】

大問は5題あり、試験時間は120分です。公式に当てはめるだけで解ける問題はほとんどないので、まずは解答の方針を考えることが必要です。一橋の数学は文系数学の中ではトップクラスの難しさと言われますが、毎年典型問題や過去問の類題が少なくとも1問は出題されているので、その問題を含め解ける部分で落とさないことが重要です。

出題内容では、第1問が整数問題、第5問が場合の数・確率と固定しており、残りの3問は微積分・数列・図形・ベクトル、またそれらの分野の融合問題が出題されています。他大学に比べて出題にくせがあるので対策は練りやすいですが、毎年問題の難易度が変動するので苦手分野は作らないようにしましょう。

整数問題は学校で扱うことが少なく、始めはイメージがわからないかもしれないのでそういう方には東京出版の『マスターオブ・整数』、または細野真宏の『整数問題が本当によくわかる本』という問題集(参考書)をおすすめします。どちらかをやれば、偶奇や剰余による分類・約数倍数関係の利用・条件からの絞込みなど整数問題特有の考え方を身につけることができます。ただ、やりすぎても対効果が低いので基本だけにするなど典型問題をさらう程度でいいでしょう。多少「発想力」が必要なので、あまりひとつの解きかたにこだわらず、練習の時から別解を考えるようにすると思います

場合の数・確率は、 n を用いて一般化することが必要な問題が出題されるので、まずは具体的な値の場合で実験してみると解きやすくなります。確率漸化式を含め考え方に慣れば得点源になる分野なので何度やっても答えが合わないからといって、苦手意識を持たないで下さい。整数や確率分野はある程度他分野から独立しているので、夏休みなどを利用して集中的に解く、あるいは解きなおすと効率よく伸ばすことができます。

昨年度前期は出題されなかった微積分ですが、文系ということもあり典型的で手がつけやすい問題が多いので、図を正確に書き計算ミスをしたことが重要です。

また、数年前から発表されている通り今年度から後期試験の制度が大きく変わりますが、後期の数学は出題形式・内容が前期に似ているので、後期試験の過去問も余裕があればやってみるといいでしょう。特に数学が得意、あるいは得点源にしたい方は解いておいてそんなはないと思います。

【対策】

夏の始めまでは基本的な問題を数多く解き、公式・定理の使い方や使う場面を覚えていってください。この時期は難しい入試問題にあたるよりも、教科書レベルの問題をマスターすることが先決です。また、計算ミスが多い方は自分がどういったミスをするのかチェックしてみましょう。公式のうろ覚え、符号のつけ忘れ、図が不正確、下書きの計算が雑など原因は人それぞれですが、数学で計算ミスが多いのは致命的なので検算をこまめにするなどして克服しておきましょう。秋以降はどうしても2次社会やセンター理科・公民に時間がとられます。そのため多少面倒でも公式を覚える際に一度それらの証明をしておく、忘れにくく実践的です。

基本事項を確認し終えたら、2次試験の対策を始めましょう。問題集や過去問を解いていき、あいまいな分野はそのつど基本に立ち返ってください。私大対策として、受験を考えている方は夏ごろに慶応大学経済学部や早稲田大学政治経済学部の数学過去問をやると基本の確認にもなって一石二鳥です。また、河合出版の『文系数学良問のプラチカ』や、駿台が過去の実践模試を収録して出版している『一橋大学への数学』が二次試験対策としておすすめです。過去問はできれば本番を意識した形で解いてほしいです。しかし過去問の目的は問題集とは違い出題傾向を把握するためのものなので、秋ごろにまだ歯が立たない方（現役生はここから伸びるので大丈夫です）は例えば5年分は時間無制限でじっくり解き、残りは冬に時間を計って解くなどとしたほうがいいと思います。過去問を解かずに大事に残しておくのは遠回りになる可能性があります。

数学に時間を割いているのに秋から冬の時期にかけて数学の偏差値が伸びていない、あるいはスランプかなと感じている方は、自分が受けた模試の間違った分野の問題を復習してみてください。数学という科目柄模試ごとに偏差値が安定しない人も多いでしょうが、解答を少し見れば後は完全にわかるというレベルと模試や試験で実際に完答するというレベルには思っている以上に差があります。一橋模試で思っている通りの点数・偏差値がとれない人もたくさんいると思いますが、行き詰っている人には自分にとっての課題が見つかるはずなので判定よりもその中身を気にしましょう。

センター試験の数学は、二次試験の数学を対策してきた人でも形式に慣れていないと60点70点はざらです。センター利用や前期試験前の心持ちを考えると、遅くとも1月に入ったらセンター数学の対策をするべきです。直前期は二次の社会や私大対策に終われてなかなか手が回らないと思いますが、数学の実践力が落ちない程度で演習をおこなってください。

国立大学の受験生は二次試験に加えセンター試験があり、科目数が多いので数学にかけられる時間は限られていると思いますが、数学に関してはすぐに解答を見てしまうと少しひねられた問題に対応できません。問題集などに解答として掲載されていなくても、自分の考えた解法で解けないかじっくりと試してみることは数学の力をつける上で重要だと思います。

あたりまえのことですが全教科にわたって意外と盲点なのは「問題文をしっかりと読むこと」です。条件を見誤ると答えが出なかったり、場合わけや計算が複雑になるので、解答の方針を立てて解き始める前にもう一度問題文の条件を確認してください。場合の数・確率の問題などでは題意を正確に把握していることを示せば点数が発生しますが、逆に問題をよく読まないでミスすると他の受験生に大きく差をつけられることになります。

また、二次試験の数学はすべて論述式なので、数式の羅列やなんのこわりもなく定理・公式を使うのは極力避けましょう。特に論証問題を解く際には、細かい部分まで気を使って丁寧に書くことが減点を少なくすることにつながります。整数分野ででてくる、2数の最大公約数・最小公倍数を表す記号や合同式をもしも使う場合は使う前に必ず解答用紙上で定義しておきましょう。そういった数学の知識を見せれば点数がもらえるわけではないことに注意してください。

最後になりますが、問題の作成者・採点官の視点から問題を眺めてみると解答の方針が見えることがあります。(1つの大問中の(1)は(2)を解く上でのヒントになっていることが多い、数列の和を求める問題で末項が $2n$ の場合偶奇分けが必要なことが多いetc…)この点に関しては、東北大学のホームページに大学の出題者側から前年度試験の講評がアップされる(日本の大学で唯一)ので一度目を通しておくときっと役立つと思います。

解答用紙を白紙で出すのは絶対やめてください。自分がわかった部分の条件式や考え方、具体例での実験を投げ出さずに書くことで数点もらえるかもしれないので食欲にいきましょう。

Column：夜食・おやつ

勉強しているとお腹が空きますよね☆筆者もどれだけ間食をしたかわかりません…。しかも受験生になると全く運動しなくなる人も多いかと思います。だからといって間食せずに空腹のまま勉強しても集中力に欠けてしまうので、適度な間食はとりましょう！集中力を高めるには、チョコレートが良いといわれています。ただし食べすぎは返って逆効果らしいので、くれぐれも食べすぎないように！！個人的には、ノンフライのカップ麺(うどんとか)も消化が早く、太りにくいという面でオススメです。また、胃が活発化して寝むれなくなるので、睡眠の2時間前には食べるのをやめたほうがいいらしいです。なににせよ、「健康」でいるためには3食をきっちり食べることが最も重要なので、栄養バランスのとれた食事をした上で間食してください♪

Column：スランプ

スランプ。嫌な響きですね。一般的に受験生は皆スランプに陥るのを恐れていると思います。こんなに勉強しているのに何故か全然偏差値が上がらない・・・などと今まさに悩んでいる方もいるかもしれません。しかし、敢えて私はいいます。スランプが来たら喜んでください。スランプとはいわゆるエネルギーを貯めている期間なのです。スランプという高い壁を乗り越えることさえできれば、あなたは今までよりもずっと高い所に登ることができるのです。なので、スランプだからといって、どうか努力を止めないでください。努力することを止めてしまったら、それこそ今までの苦労が全て水の泡になってしまいます。そんなのは嫌ですよ？ですから、スランプとかいう、たった4文字の言葉なんかには絶対に屈しないでください。自分を信じて頑張ってください。応援してます。

Column：ホテルの過ごし方

試験前夜、慣れない部屋で過ごすのは意外と不安になるものです。勉強をして気を紛らわせるもよし、テレビを見てリラックスするもよし。とにかく次の日を寝不足で迎えることのないように過ごしてほしい。やるべきことはやってきた、そう言い聞かせて過ごすのがいいだろう。筆者が前期試験でホテルに泊まった時は、部屋が静かになるのに耐えられず常にテレビをつけていたり、風呂を泡風呂にしたりしてリラックスした。食事は堅苦しいのが嫌でルームサービスは使わず、コンビニで買ったお弁当やおにぎりを食べた。もし急に頭痛や腹痛になったら、フロントに連絡して薬をもらうことを忘れずに。万全の状態試験の朝を迎えてください。

国語

【傾向】

一橋大学の国語は3問構成で第1問は評論、第2問は文語文または現古融合文、第3問は要約です。配点が低いためなおざりにしてしまいがちですが、入試では1、2点の差で合否が決まるので対策を怠らないようにしましょう。

◆評論文

比較的読みやすい内容ですが、小林秀雄など難解な文章が出題された年もあります。問いは以下の二つに分けられます。

①漢字書き取り

漢字の書き取りが10問出題されます。難易度は高くなく標準的です。

②内容説明（記述）

昨年度は80字の記述問題が出題されましたが、制限字数は短いことが多いです（30字～50字）。また「自分の言葉で」という制限がつくこともあり、文章を咀嚼し適切な言葉で解答をまとめることが求められます。

◆文語文

主に明治以降の文章で、内容は政治思想、学問など。独特の言い回しがあるため慣れないうちは読みにくいです。制限字数は短く、文章表現力が求められます。過去8年間で4回出題されています。

◆現古融合文

江戸時代の思想や文学に関する文章。古文の読解力を問う問題（現代語訳、解釈問題）が主です。古文の基礎的知識があれば読解できます。過去8年で4回出題されています。

◆要約

250字以内とされた年や条件付き要約が出題された年もありましたが、ここ3年は条件なし200字以内で落ち着いています。今年度もこの傾向が続くとみてよいでしょう。文章の内容は様々ですが、科学技術や学問に関するものが多いです。

【対策】

◆評論文

漢字に関しては入試用の問題集を1冊やれば十分でしょう。私は河合出版の「入試漢字マスター1800」を使用しました。前述したように難易度は高くないので確実に得点するようにしましょう。

内容説明に関しては、少ない字数で出題者の意図に的確に応える訓練が必要です。30字、50字で解答をまとめるのは想像以上に大変です。一橋の過去問や市販の問題集を使ってしっかり記述の練習をして下さい。その際問いに適切に答えているか、解答文が不自然でないかを常に意識することが重要です。添削指導を受ける事も薦めます。

また「自分の言葉で」という制約がついた場合は極力本文で使用されている言葉を避けなければいけません。一橋の国語は文章の1部分をつなぎ合わせるだけでは対処できないということを肝に銘じてください。あと、語句の意味を問う問題が出題されることもあるので普段文章を読んでいて分からない単語があったらまめに調べておくといいでしょう。

◆文語文、現古融合文

文語文、現古融合文の参考書はほとんどないので（私が知っている限りでは駿台文庫の京大文語文対策の問題集のみ）、過去問対策が有効です。ですが最初は皆さん慣れない文章形式に戸惑うと思います。そこでおすすめするのは問題文を音読する事です。音読を繰り返して文語文、現古融合文独特の言い回しに慣れましょう。また明治維新などに関する知識があると文章を理解しやすくなるので日本史のテキストなどの該当箇所を読んでおくとう利です。でも普段の古典の授業を大切にしてお読解力を養い一橋の過去問に取り組んでおけば大丈夫ですよ。

◆要約

おそらく一橋国語で最も差がつくのがこの要約ですからしっかり対策してライバルに差をつけましょう。

要約をする際にまず意識すべきことは、具体例を省くことです。たいてい具体例は筆者の主張を補強したり読者に分かりやすく伝えたりするために挿入されるので基本的に要約には不要です。

次に文章から段落ごとの要旨を抽出します。段落の中で筆者が最も伝えたいと思われる部分をチェックして下さい。（私はその部分を四角で囲んでいました）

そしてそれらを要約文にまとめるのですが、200字という制限字数は決して長くなく、ただ要旨をつなぎ合わせるだけでは字数オーバーしてしまいます。そのため筆者が結論に至る過程を自分の頭で理解し、適宜自分の言葉で言い換えながらまとめていって下さい。要約文を読むだけで本文に書いてある内容を理解できるのが理想の要約文です。

そして作った要約は必ず添削してもらいましょう。私は高校の先生に40回程添削してもらいました。添削を受けることで自分の見落としに気付くことができます。また要約はやればやる程まとめるスピードが速くなるので市販の問題集や過去問を使ってできるだけ多くの文章を要約するようにして下さい。

最後に、条件付き要約（2002年度、2004年度など）が出題された場合はその条件を満たさなければ話にならないので注意しましょう。

2次国語は大問3問を100分で解くので比較的時間に余裕があります。ただ当日は思わぬ事態が起きる事もあるので、どういう順番で解くかをあらかじめ決めておいてテキパキ解いていきましょう。2次試験まであと半年強。皆さんの健闘を祈っています☆

世界史

【傾向】

大問三題構成で一題400字です。大問の中で小問に分かれることもあります。大問一は中世ヨーロッパ史、大問二は近現代欧米史、大問三は近代アジア史が出ることが多いです。また、問題文の読み取り自体が難しいことがあります。

以前、一橋の世界史は東大と並ぶ良問ぞろいの試験として知られていましたが、ここ数年は、大学受験世界史の知識レベルを完全に無視する悪問がでる場合がある、という事態になっていました。しかし、今年は以前のような良問ばかりの問題に変わっていました。(簡単だという意味ではありません。) 来年も今年のように良問だけだったらいのですが、悪問が出る可能性もあるので、試験開始と同時に大問三つにざっと目を通して、悪問があるかどうか判断しましょう。もしあった場合は残りの良問二つに時間をかけて、そこで点を稼ぎましょう。悪問は誰も出来ないで差はつきません。したがって、後回しで構いません。

【対策】

まず、一橋の世界史で高得点を獲得するには世界史の勉強に膨大な時間をかけなければいけないことを知っておいてください。その上で自分は世界史で勝負するんだ、と決めたら覚悟を決めて頑張ってください。一橋の世界史の論述は、ただ単に人名や事件名などの単語を覚えていただけでは全く太刀打ちできません。ではどうすればいいか。世界史を構造的に把握し、歴史事件の因果関係を理解し、歴史的考察力を高めることが必要になってきます。(例えば、今年の大問一では、ハンザ同盟の衰退の原因を問うていましたが、これは少なくとも山川の教科書には言及がなく、自分の中で、別々に存在する知識を関連づけられるかが問われていました。ちなみに、答えは三十年戦争による諸都市の荒廃とかです) これには教科書の読み込みが効果的です。自分は山川の教科書を使っていたのですが、十回くらいは繰り返して読みました。教科書は(特に山川は)実は結構入れるべき説明が省略されて書いてあるので、注意深く読まなければなりません。例えば、山川の教科書ではビスマルクのところで、ドイツ南部のカトリック教徒に対し文化闘争がどうのこうの・・・のような意味の文がいきなり出てきますが、では何故ここにカトリック教徒がいたのでしょうか? 教科書には書かれていませんが、実は対抗宗教改革の成果だったりするんです。このように文と文の行間を読むような感じで読み込んでください。ちなみに教科書は論述対策としてであれば、太字の用語の部分よりも、一見なんということのないような細字の説明の部分の方がはるかに大切だったりします。といっても基本的な重要用語を覚えている、という前提の上ですが。また、一橋ではマクロ的な視点にたった問題よりも、ミクロ的な視点にたった問題のほうが出ることが多いです。なので、教科書と併用して用語集を頻繁に見て、マニアックな人名や事件も覚えましょう。更に、一橋では『自由』、『市民』、『社会』などの抽象的な言葉の理解が問われることがあります。その上、『中世』、『近世』、『近代』などの歴史区分も具体的に把握しておかなければなりません。これらは『荒巻の世界史の見取り図』シリーズを読むことで学べます。他にも、この本は世界史の本質

ともいうべきものを突いており、日本で最高レベルの論述を課す一橋の世界史の試験にとって、まさに最適な参考書だと思います。ただ、この本の内容は高度なもののなので、一通り世界史の学習を終わらせてから読んだほうがいいでしょう。この本は繰り返せば繰り返すほど味が出るので、是非とも三回ぐらい読んでみてください。本当の意味で世界史が分かってくるでしょう。次に論述に関して書きます。たまに論述の問題がでたら、全て『流れ』を書いてしまう人がいますが、きちんと問われていることに対して解答しなければいけません。例えば、今年のように『比較』の問題ならば、しっかり比較の要素を揃え、つまりきちんとした比較の体裁を整えて論述しなければ、高得点は望めません。論述の書き方を学ぶ為の参考書としては、旺文社の『世界史論述練習帳』がいいと思います。この本は問題のジャンル別にその解き方の説明がのっており、参考になります。ただ、少し、文章としての論述を考えたときに異論を挟みたくなるようなところもある（例えば、体現止めは構わない、とか、主語はいらない、など）ので参考程度にするといいと思います。過去問を解くのもとても大事です。実は一橋では十数年置きに焼きなおされて出題されるような問題が意外とあるのです。例えば、今年の大問三の(1)は1992年の大問三の(イ)の完全な焼き直しです。他にも過去問の類問であったり、過去問を解いて得た知識が役に立つような問題があるがあるので、過去問は出来るだけ遡って解きましょう。前述の『世界史論述練習帳』には一橋の過去問が三十年くらい前のものまで部分的に載っているので、見てみるといいと思います。また、論述を書く際は問題にもよりますが、文章が出来るだけ論理的になるように気をつけましょう。ただの知識の羅列よりも採点者にいい印象を与えることが出来ます。書き始める前に構想メモを書いておくと、しっかりと論理的な文章が書けると思います。あとアドバイスをいくつか挙げると、一橋模試は本番前に必ず復習してください。今年は河合が当たりました。二次試験開始数分前まで足掻いて勉強してください。自分は今年試験が始まる三十分前に見ていたところが出ました。

<最後に>

自分は現役時代、河合の記述模試で偏差値40台をとってしまうほど世界史が苦手でした。というか覚えるのが面倒で世界史を全く勉強していなかったのです。それで一橋を目指していたのですから愚かですね。浪人が決定したとき、どうせ浪人するなら苦手な世界史を武器にしようと思い、必死に世界史を勉強しました。すると、本番で世界史に助けてもらえるほどになりました。そうです。世界史は本人の努力に必ず応えてくれる教科なのです。なので、皆さん、暗記するのは辛いし面倒ですが、是非とも世界史を頑張ってみてください。世界史はきっと応えてくれます。皆さんが来年の春一橋に合格することを願っています！

Column：自転車

大学生活に自転車は欠かせません。一橋は授業の休み時間が15分しかなく、スポーツ方法の後、キャンパスを移動しなければいけない時などは徒歩だと次の授業の開始時間ギリギリになってしまいます。そのため休み時間には自転車で移動する学生の姿が多く見受けられます。東キャンパスと西キャンパスを結ぶ横断歩道は自転車であふれまるで中国のようです（笑）

また国立のおいしいお店に行くのも自転車があると便利です。大学に入ったら是非自転車を手にいれてキャンパスライフを楽しみましょう！！あつくれぐれも盗難には気をつけて下さいね。

日本史

【傾向】

大問は3つあり各400字ずつ、試験時間は120分です。小問の字数配分は自分で決める方式ですが、たまに人物名などを問うだけの小問もあります。〔1〕古代～江戸までの通史か江戸の一時期的しくは安土桃山の社会経済史や政治史、〔2〕〔3〕は、明治以降の問題が出題され、戦後史もよく出題されます。近現代史が中心の出題傾向だと言えます。この傾向は昔からほとんど変化がなく、史料などと絡めた問題も多いです。

問題のレベルは極めて高いです。教科書レベルを超えることもあるので、東大に匹敵する難易度と言われているようですが、過去に出たテーマがまた出るということが多いので対策は立てやすいと思います。商学部、経済学部が有名な大学だからなのかはわかりませんが社会経済史に関するテーマが何度もくりかえし出題されています。

【対策】

近現代中心の出題傾向とはいえ、センター、私大や〔1〕のことを考えると古代や中世を捨てる訳にはいかないと思います。実際私は古代なんて二次に出ないと思ってしまい、予備校の縄文とかの授業中はほとんど寝ていたらセンター前に焦りました…。古代、中世を軽く見ると痛い目に合いますよ！授業をしっかりと聴き、教科書もきちんと読むことがとても重要です。特に山川出版の教科書はお勧めです。よく本文がセンター試験に引用されたりするので読んでいて得だと思います。通史を一通りやって、時代の流れを頭に入れることが大切です。現役生には厳しいとは思いますが、できれば夏までに終わらすのが理想です。もっとも、学校で未習の分野は細かい用語などは覚えなくていいです。おおざっぱな流れくらいで…。論述で必要なのは細かい用語よりも歴史の流れです。それに流れが理解できれば用語も暗記しやすいです。そのためなるべく通史を終えてから論述に入ってください。

しかし、いきなり「400字で書け。」などと言われてもできない人が多いでしょう。というか普通できませんよね…。なので、最初は50～70字くらいから始めてください。お勧めは「Z会の日本史論述トレーニング」です。これは論述量が少ないものから多いものまで幅広く取り扱っているので、論述を始めたばかりの人にはお勧めです。最初は間違えだらけでもいいです！解答をじっくり読み知識を増やすことと、論述のやり方を掴むことだけで十分です。できれば自分の論述を学校や塾の先生に添削してもらってください。その方が採点を確実にすることができるし、問題集の解答に載っている以上に細かい解説ももらえるからです。

論述に慣れてきたら、過去問に挑戦してみてください。というのも、日本史は同じようなテーマが何度も繰り返して出るからです。（個人的には太平洋戦争期の国内戦時体制がよく出る気がする…。）学校や塾で古い赤本があったら是非日本史だけでも挑戦してみてください。古本屋にも昔の赤本が置いてあったりします（近所のBOOK OFFで見ました）。解いていけばだんだん出そうな場所とかが分かってきますよ！ちなみに私は日本史だけは12年分ぐらいは解きました。他の科

目は7年分くらいですが…。

過去問も先生に添削してもらってください。この時点では皆さんはわりと論述に慣れていると思いますが、自分では通じると思っていた言い方が他の人にとってはわかりにくいってことは意外にありますよ。やはり客観的な採点があるといいと思います。どうしても添削してもらえない状況にいる人は家族や知人などに自分の文章を読んでもらい、内容が通じるかどうか聞いてみてください。採点はできないとは思いますが、伝わりにくい表現や二重に意味がとれるような文章とかは指摘してもらえるとと思います。

また、教科書内容を上回る設問に解答するために近現代史に関する新書や専門書を読む人もいます。ただ、他の受験生もそういう問題は解けないのでできなくてもそれほど致命的な失敗にはならないだろうし、他の3科目も勉強しなければならないことを考えると日本史にそこまで時間はかけられないと思います。まあセンターで失敗して得意科目が日本史なためどうしても点を稼がないといけな人はやってみたらどうでしょうか？社会の配点が低い学部を志望する人や他に得意科目がある人は読む必要はないと思います。ちなみに私は社会学で得意科目が日本史なのに読んでいません（笑）

現役生は授業でやっていないことの多い戦後史の分野も一橋二次では出題されます。実際私の時には田中角栄に関する問題が出ました。そのため、厳しいと思いますが現代史の勉強も必要です。ただ、センターの後は勉強する科目が英国数社に絞れるので、あきらめずに頑張ってください。

オープンの問題も二次前には見直してください。今年は河合の世界史が大当たりしたそうですが、そういうことがあるかもしれないので☆オープンは各予備校の分析をもとに一橋二次の形式に従って作られたものなので問題の解説だけでなく出題意図や出題者が受験者の答案を採点して感じたことなども読んでおいてください！他の受験生がどこができてどこができないのか知ることができるのでかなり参考になるとと思います。

私は文転したため高2時代、日本史をほとんど勉強していませんでしたが、以上の方法で日本史を武器に社会学に入ることができました！（浪人したけど…）論述の勉強方法に困っている人は是非試してみてください。あと、「使えるものは先生でも使え」と私は高校受験の時に言われましたが、これは大学受験にもあてはまります。だから躊躇せずに先生に論述の添削を頼みにしてみてください☆

Column：私大全滅・・・

自分は現役・浪人時あわせても一般入試で合格したのは一橋しかなかった。現役のときは時間に余裕がなくて、浪人のときは私大を舐めていて対策をしなかったせいだと思う。余程の力と自信がなければこんな態度はとらないほうがいい。A判定をとっていても落ちるよ、本当に。浪人時には一橋に絶対受かるんだという意気込みと自信があったため、私大対策なしという暴挙にでたが、今から振り返るとかなり恐ろしい。私大が全滅したあと、一橋発表を待つ2週間は耐えがたい不安にさいなまれた。自分のためにも家族や周囲のためにも、早慶くらい確保したほうがいい。ただ、私大対策におわれて一橋対策が疎かになるような、本末転倒なことは避けてほしいけれども。

地理

【傾向】

例年大問3題の構成になっていて、選択問題が出題されることもありますが、ほとんど論述問題です。経済地理に絡んだ問題は必出であり、近年経済発展の著しい途上国はほぼ毎年取り上げられています。難易度の高さはトップクラスであり、スタンダードな受験対策では対応しきれない部分もあります。

また、グラフや統計資料を利用した問題が多いのが特徴であり、それらの資料を読み取っていき地域の特徴を導き出し、制限字数内でポイントを押さえて論述できるかが鍵となります。

今年度は、受験生にとって取り組みやすいテーマが多く出題されました。第Ⅱ問のアスワンハイダム建設が地域にもたらした功罪などは頻出テーマとも言え、全体的にやや易化傾向にあるかにも見えます。しかしその分受験生の実力がそのまま反映されやすくなるため、十分な対策をしたかどうかによって大きく差がつくことも考えられます。

【対策】

◆基本を押さえる・論述テーマを攻略する

難易度の高い問題ですが、まずは基礎的な知識をしっかりと蓄えておかなければ太刀打ちできません。教科書レベルの事項はマスターし、資料集にもしっかりと目を通しましょう。

筆者の経験では、この際、模試の復習が大いに役に立ちました。マーク・記述式、正解・不正解問わずとにかく解説を精読し、論述のテーマになりそうな事項を中心にひたすら復習用ノートにまとめていきました。ひとつの模試に大体3～4時間以上はかけていたので、未消化に終わる模試も少なくなかったのですが、これを1年間繰り返すことで多くの論点を潰していくことができました。

また、これは予備校の授業で言われたことですが、学習の際にはテーマに対する「コア的なイメージ」を意識して覚えるようにしました。たとえば、

・「貿易」→「ヒト・モノ・カネの移動」

・「日本のニュータウン」→「職住分離」

といった感じです。これだけ見ると何でもないことのように思えるかもしれませんが、テーマとそのイメージを密接に関連付けて覚えることで、問われているテーマさえ見抜ければ、ピンポイントの解答を作成できるようになります。人それぞれ学習方法はあるかと思いますが、一例として参考にいただければ幸いです。

◆高校地理を越えてみる

…と言うと語弊があるかもしれませんが（笑）、一橋大学の地理では、地理の範囲を越えて、世界史や政治経済の知識をバックグラウンドとして必要とする問題が出題されることもしばしばあります。直接必要とはしなくても、たいていの場合そういった知識をもっている方が有利であるので、可能であれば世界史の教科書の近代史の部分や、政治経済の教科書の経済分野の部分を一読してお

くことをお勧めします。それ以外にも、日頃からテレビや新聞などに目を通し、国際情勢や経済について関心をもっておくことも重要です。

◆論述対策をしっかり

よく言われることではありますが、論述問題はただ解答を読んでいるだけでは書けるようにはなりません。自分で実際に書いてみて、先生など他の人に添削してもらいましょう。筆者はこの対策が十分ではなかったのも、かなり危ない橋を渡ったものだなあと今更ながらに感じています。試験では膨大な論述を課されることになり、それを時間内でとなると負担も相当に大きいものになるでしょうが、「書く」という作業を繰り返すことで論述に対する抵抗のようなものも徐々に克服でき、本番での自信に繋げることができます。

対策用の問題ですが、筆者は予備校のテキストをこなしていましたが、まず頻出テーマを押さえ、100字程度の記述に慣れるという点では、スタンダードな良問揃いの東京大学の過去問が良いと思います。一橋の過去問はそんなに焦って早くからやる必要はないかと思いますが、自分の感覚で傾向をつかむためにも、夏休みや冬休みを利用して数年分は解いておくといいかもしれません。赤本と青本についてですが、違ったアプローチで解答が作成されていることもあるので、出来れば両方参考にしてみるといいでしょう。

◆+α

一橋地理では、受験生になじみの薄い国や地域が頻繁に出題されます。そういった地域が出題されたときに怖気づかないためにも、できるだけあらゆる地域に関して知識をもっておくことが大切です。知らない地名に遭遇したら必ず地図帳で調べるようにしましょう。また、『データブック・オブ・ザ・ワールド』（二宮書店）の後半部分の世界各国要覧には、各国の気候や略史、経済、産業に至るまであらゆる事項が掲載されているので、一読してみることをお勧めします。これは毎年1月初旬に発行されるのですが、筆者はセンター前に最新版を買いなおすほどのオタク振りでした（笑）。正直、ここまでしなくていいです。

しかし地名に関しては、誰から何と言われようとオタクの域まで覚えるに越したことはありません。直接点には結びつかなくとも、やはりそれはひとつの自信となって自分を支えてくれるでしょう。

Column：息抜きの仕方

毎日数十時間やることだけを目指している受験生の人も中にはいますが、受験期には適度な休憩が必要不可欠です！私は毎週ドラマを見ていて、それを楽しみに勉強をやっていました。また予備校ではご飯の時間は高校の友達と話し合ってお互いの近況を報告しあったりしていました♪毎週発売されるジャンプを楽しみにしていた人もいます（笑）まためっちゃ細かいんですが、「3時になったらチョコを食べよう！」みたいに小さな、というか小さすぎる目標をたてるのも何気にいいですよ。確かに勉強をしていない時間は不安に襲われたりしますがそれは皆が経験することです、そんなに心配することではありません。やりすぎは厳禁ですが適度の息抜きは逆に勉強の効率をアップさせますよ！

倫理政経

【傾向】

例年は、倫理、政治、経済の各分野からのそれぞれ一題ずつの出題。しかし 2008 年は、I でアダムスミス、II で株式会社の特質、III で日本の社会保障制度が問われ、経済分野に傾いた出題だった。また、例年では 400 字を小問に分割しての出題が多いが、2008 年には、II において丸々 400 字記述の出題があった。

どの分野においても、時事問題に関連した出題が多く見られることが特徴。単なる知識の詰め込みでは対応できないと思われるが、社会情勢などに興味がある人にはもってこいの科目。私的には、一橋の社会選択科目の中ではかなり有利な科目だと思う。

○ 倫理

西洋近代思想からの出題が主。他に、近代日本思想や古代ギリシャ思想、キリスト教思想、最近では現代社会の範囲からの出題もある。細かな知識が問われることはほぼなく、知識を問う問題が出たとしても、主要な思想家に関する理解があれば対応できる。とはいえ知識問題がない場合にも、導入文の正しい理解には、主要な思想の概要を正しく理解している必要がある。導入文にヒントとなる内容が含まれていたり、導入文の要約をすれば解答となってしまったりする場合もあるので、導入文や問題をよく読むことが大切。

○ 政治・経済

時事問題をふまえた出題が多い。ただし、政治に関しては、時事問題に絡めて抽象的な事柄や、派生する事柄を問うてきたりする。経済に関しては、最近はグラフや表からのデータを分析する問題が頻出。どちらに関しても、ある問題に対して一面的にとらえるのではなく、全てに関連づけて考えるくせをつける必要がある。全ての知識を体系的に整理していないと解答が導き出せない場合が多い。

【対策】

○ 倫理

私の場合は、これまでの出題範囲である西洋近代思想、近代日本思想、古代ギリシャ思想、キリスト教思想を中心に基本知識を夏休みまでに一通り学習しました。私はチャートと資料集を使用しましたが、学校で授業がある場合は、その授業で扱う教材の内容を理解するだけで十分だと思います。現代社会に関する問題への対策としても、倫理の教科書にある「現代社会の課題」などの章を読むことや、政経での学習で十分だと思います。

夏以降は、ひたすら過去問を解いて先生に添削してもらいました。過去問を解くときには、問題となっている部分に関連することも一緒に学習すると効率も上がります。

また、余談ですが、赤本や青本では解答の視点が全く違うことがよくあります。そうでなくても、自分の解答の意図するところと、それらの解答の意図するところが全く違う場合があると思います。このような場合、赤本（もしくは青本）の解答が絶対だと思うと、先生に質問し、一緒に検討して

もらうといいと思います。理解が深まること請け合いです。私は、先生に赤本と青本と自分の解答を比べて、解説をしてもらっていました。

○ 政経

まず、夏前までに全範囲の内容を一通り学習することをおすすめします。私は、初めに書き込み式のノートを利用して学習しました。また、その他にも『名人の授業シリーズ 清水の新経済攻略』（ナガセ）を利用して経済分野の学習をしました。（当時はこのシリーズの政治編はなかったのですが、現在は出版されているのでこちらも活用するといいと思います。）夏休み以降も、『センターに出る 政治・経済 用語＆問題』（Z会）を使って、知識の確認作業をすることも忘れないで下さい。

知識が一通り学習できたら、論述対策に移るわけですが、政経論述用の参考書というのはほぼ存在しないというのが現実で、過去問を解いていくのが一番の対策となると思います。が、その前段階としてやる問題集としては、『実力をつける政治・経済80題』（Z会）がいいと思います。私は、夏休みまでに、範囲を一通り学習するのと平行してこの問題集をやりました。論述と知識問題が別れているので、まず知識問題をやってから論述問題に取り組むと良いです。

また、内容を理解するときや過去問をやるときはもとより、問題集に取り組むときや学校の授業を受けるとき、模試の復習をするときには、かならず資料集や用語集を使って徹底的に各内容を理解することがポイントです。そして自分の取り組んでいる問題点のみを明らかにするのではなく、その問題点と関連する事柄も理解することで、体系的な学習ができるはずです。私は、資料集に関しては『政治・経済資料集』（とうほう）、用語集に関しては『用語集 現代社会+政治経済』（清水書院）を使用していました。もし余裕があるようだったら、資料集や用語集の他にも、新聞や新書を読むことも有益だと思います。

過去問に関しては、はじめは資料集や参考書などを見ずに自力で解答を作り上げ、その後資料集などを徹底的に調べて解答を再度作り上げて、先生に添削してもらい、その後また解答を作りなおす、という作業をすることをおすすめします。私の場合、時間を計りはじめたのは一橋模試の後からだったので、最初はあまり焦らずにしっかりとした解答を作り上げることを考えて取り組む方が良いと思います。

<最後に>

私が倫理政経での受験を決めたのは、高3の6月でした。それは、私がお頃に文転したということと、政経が好きだったということが大きく影響しています。はじめは予備校での講座や対策用の参考書のなさに愕然としました。でも、受験を終えた今思うことは、倫政選択は有利だということです。周りから奇異な目で見られることはあっても、自分のやるべきことをやれば必ず合格への道が開けると信じています。これを読んでいる倫政受験生が合格できますように！！

ビジネス基礎

○そもそもどんな教科？

一橋大学前期試験社会科学の選択肢の中には、日本史、世界史、地理・倫理・政経のほかに「ビジネス基礎」というトリッキー(?)な選択肢が用意されています。大問3問構成で大問ごとに400字制限というのはほかの教科とまったく同じですが、とにかくとてもマイナーな教科で、予備校の一橋模試、青本にことごとく存在を無視され、赤本に問題は載っているものの対策はおろか、答えが載っていない、というはぶられっぶり。哀れビジ基。

○どんな問題が出る？

主に「市場全体またその内部システム」に関する問題が出題されます。といっても極端に細かい専門知識は必要とせず、他の教科と同じよう、むしろ他の教科以上に知識よりも思考力を見ようとするような問題が出題されます。(ある程度、その手の知識が必要ですが)。これだけ見ると難しそうです。が！できる人には。確実に他の教科よりも得点を取りやすい科目となっています。以下、端的な何問かを抜粋。

- ・商品の仕入れに当たって考慮すべき事項について説明しなさい(400字以内)(04年度、Ⅲ)
- ・コミュニケーション手段としてのインターネットの特徴について説明し、インターネットの普及が企業のマーケティング活動に及ぼす影響について論ぜよ。(400字以内)(02年度、Ⅲ)
- ・大規模小売店舗立地法の制定などによって、わが国における流通に変化が見られる。あなたの出身地、あなたが現在住んでいる地域、あるいは、あなたが関心を抱いている地域のいずれか1つを取り上げ、その市町村の主たる小売業の業態を概観し、小売業の現状における課題について思うところを述べなさい。(400字以内)(06年度、Ⅲ)

○勉強法は？

とりあえず、過去問を解くこと。そして、この手の問題の添削ができそうな人を見つけて、添削をしてもらう。ビジネス基礎はどこを探しても答えが無いので、添削してもらう人は特に重要です。さらに理想的なのは、問題に関してその添削者と議論すること。僕は学校の先生にみてもらって、その先生と、「この問題は何が聞きたいんだ・・・？」とか「この問題にはこういう切り口もあるよね・・・？」というような議論をしました。こうすることで、この教科の問題に関する応用力が飛躍的に伸びます。

そして、その手の本を読んだり、テレビを見ること。過去問を一通り眺めて、ビジネス基礎に係りそうな新書(お勧めは中公新書、伊藤元重、著『流通は進化する』)を読む。テレビは「ガイアの夜明け」とかNHKスペシャルの経済っぽい特集を見たり(ガイアはテレビ東京制作だから

東京圏じゃないと見れないかも)。僕にとってはどっちも素直に面白かったので、自然と息抜きにもなりました。

○「ビジネス基礎」受験の可能性のある人へのアドバイス

この教科は人を選びます。この教科をお勧めする人は、「社会選択で困っていて、過去問を見て、これはいける！と思っちゃった人」です。僕なんかは高校の社会選択の関係で地理しかないと思い頭を抱えていたところこの教科を発見し、救われた人です。問題の解答を考えているときは最高に楽しかったですよ。この手の問題を考えるのが嫌じゃない人、それどころか楽しい人には是非お勧めです。ただこの教科を選ぶと、模試の成績判定が正確に出なくて（他の未対策の社会を解いてぼろぼろのスコアを出す）、多少ナイーブになりますが（笑）。

それと過去問は全部解きましょう。そのうち、しつこいくらい同じ内容を聞いてきていることに気がつきます。インターネットと流通の変化の関連、大店法と地域経済の関係はしつこすぎるくらい聞いているので要チェックです。05年度と06年度の大問Ⅲはほとんど同じだったし。

最後にいくつか。この教科でやると決めたら、迷わず突き進みましょう。迷いは禁物。意味わからない問題が出ててもひるまない。他の教科だって5割が合格ラインとか言われているんだから。

では、がんばってください。

Column：二次試験の宿

地方から上京して二次試験を受験する人のほとんどがホテルに泊まることになるのではないでしょう。ここでは宿をとるみなさんにいくつかアドバイスをしたいと思います。

1. 中央線沿いに泊まるべし

はっきり言って乗り換えは面倒です。中央線沿いなら「○線から×線へ」といった乗り換えはないので楽です。

2. 中央特快が止まるところに泊まるべし

大きな街なので便利です。

駅：新宿・中野・三鷹・国分寺・立川・八王子

※国立に中央特快は止まりません。国分寺より東（新宿・中野・三鷹など）なら国分寺、立川より西（八王子など）なら立川で中央線快速に乗り換えましょう。

3. 土日は阿佐ヶ谷・高円寺・西荻窪に中央線快速は止まらない

快速が止まらないのはキツイです（各駅停車は止まるけど三鷹まで）。各駅停車で三鷹まで行って快速に乗り換えれば行けますが、面倒です。

4. 早めに予約するべし

個人的には国立から1駅の立川をオススメしますが、立川は9～10月で予約が一杯になります。飛行機などについても同じなのですが早めに予約しましょう。

私は後期合格で、ホテルは前期も後期も立川だったのですが、当初は何も知らなかったもので、11月に立川のホテルを予約しようとしたが無理でした（笑）その後粘り強く交渉した結果、キャンセルが出て立川に泊まりましたが…。後期なら2月でも予約できます。